

# 迎春

「“愛” 変わらず、いいところ。いなみ。」

稲美町長 中山 哲郎



新年明けましておめでとうございます。

年頭に当たり、謹んで新春のお喜びを申し上げます。

稲美町は昨年、町制施行 70 周年を迎えました。11 月 1 日には記念式典を開催し、町政に貢献された個人・団体の皆様を表彰させていただきました。また、式典当日の夜には、令和元年度以来 6 年ぶりに花火大会を開催し、町内 3 カ所で合計 1,500 発の花火を一斉に打ち上げさせていただきました。この他にも数多くの記念事業を実施させていただき、住民の皆様と記念すべき節目の年をお祝いし、その喜びをともに分かち合えたことを大変嬉しく存じます。今年 3 月まで記念事業を予定しておりますので、ぜひご参加いただきますようお願いいたします。

さて、昨年を振り返りますと、大阪・関西万博が開催され、世界中から多くの人々が関西を訪れました。「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマのもと示された新たな技術や価値観は、私たちの暮らしや地域の将来像を考える大きなきっかけとなりました。町におきましても、万博がもたらした学びや気づきを地域づくりに活かし、持続可能な暮らしと環境への配慮、子どもたちの未来を支える教育や文化の充実、地域の絆と温かさを守る福祉と防災の強化、町の魅力を高め、活力を育む産業振興といった取組を、住民の皆様とともに一歩一歩進めてまいりたいと考えております。

さて、今年の春には、住民の新たな活動拠点となる「アーバンスポーツ施設」が稲美中央公園内にいよいよ完成します。オリンピック競技にも採用され、競技人口が増加しているスケートボードや 3x3 などのアーバンスポーツを通じて、町内に新しい交流の場が生まれることでしょう。そして、未来を担う若者が躍動し、世代を超えて支え合う、そのような場が町内のあちこちで見受けられることを期待しています。

稲美町は、昔から変わることなく、大切にされてきた自然と、人とひとのつながりがこの町の魅力です。今も昔も変わらない住民の「愛」。これからも変わらずに、愛を育みます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

結びに、住民の皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げまして、新年のごあいさつといたします。



「暮らしに寄り添う希望のまちづくり」

稲美町議会議長 河田 公利助



新しい年の幕開けに当たり、皆様が健やかに新春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

平素より議会活動に温かなご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年、稲美町は町制施行 70 周年という節目を迎え、これまでの歩みを振り返るとともに、これからのまちのあり方を見つめ直す機会となりました。その一環として、「子ども議会」を開催し、未来を担う児童・生徒の素直な声に耳を傾ける中で、私たち自身も多くの気づきと感動を得ました。

国においては、憲政史上初の女性総理大臣の誕生が、社会の変化と新たな時代の幕開けを象徴する出来事となりました。

また、明るい話題にも恵まれました。ノーベル賞では、坂口志文氏（生理学・医学賞）と北川進氏（化学賞）が受賞され、日本の科学技術の力が世界に示されました。大阪・関西万博も盛況のうちに閉幕し、前回の開催から 55 年の時を経て未来の技術や国際交流の可能性を実感する貴重な時間となりました。

スポーツでは、大谷翔平選手のメジャーリーグで 4 度目の MVP 受賞や、イチロー氏の米野球殿堂入りに続き、角界では、戦禍のウクライナから来日した安青錦関が大相撲九州場所で初優勝を果たしました。その姿は、多くの人々に勇気と希望を与え、世相を映す出来事として心に残りました。

一方で、国際情勢の不安定化や物価高騰、激甚化する自然災害、少子高齢化、人手不足など、私たちの暮らしを取り巻く環境は依然として厳しい状況にあります。こうした時代だからこそ、地域が力を合わせ、誰もが暮らしやすいまちづくりを進めることが、より重要になっています。

議会といたしましては、社会の変化を見据え、住民の皆様の声に真摯に耳を傾けながら、暮らしに根ざした視点を大切に、子どもから現役世代、シニアの皆様まで、それぞれの世代が将来に希望を抱けるよう、切れ目ない支援で、安心して暮らせる環境の整備に努めてまいります。

結びに、本年が皆様にとりまして、実り多く、穏やかで希望に満ちた一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

